

バイオマス取組事例概要

《農林水産省農村振興局長賞》

- ・応募主体 銘建工業株式会社
- ・都道府県・市町村 岡山県真庭郡勝山町
- ・取組分野 木質直接燃焼、木質ペレット

取組概要

樹皮・残材を燃焼し、電力及び蒸気を利活用。RPS法認定済み。今後、木くずを原料とした木質ペレットの製造にも取り組む。

製材所33事業所が集積している真庭地域において、木質バイオマス資源の利活用先駆者としての役割を担っている。

1970年から集成材製造を開始し、木屑焚きボイラーを導入して木材乾燥に役立て、製品の性能向上を図り、1984年には、10トン級ボイラーの導入により175kW/hの発電を開始し、更に生産量の増大に伴い、20トン級ボイラーを導入して1日100tの木材プレーナー屑及び残材木屑を木屑焚ボイラーで燃焼させ発電(2,000kw/h)し、自社工場の電力を賄うとともに余剰電力を売電している。



木質バイオマス(製材残材・プレーナー屑等)



送入口



発電プラント

今後、1日100トン生じる木材プレーナー屑を活用して、ペレタイザー造粒機でペレットに成形し、木質ペレット燃料として地域内外へ販売する予定となっている。

木質ペレット燃料は、真庭地域を主体とした地域資源の循環型社会を形成する目的で、販売会社については、地域が共同して販売会社を法人化して取り組む予定である。